

タスクシフトで広がる検査 内視鏡検査の現在（いま）と未来（これから）

生検介助から始まる、内視鏡介助の発展 各診療科に臨床検査技師が配属される日に向けて

◎今村 倫敦¹⁾、石井 直樹²⁾、篠田 雅宏³⁾、青木 九里⁴⁾、畑 裕子⁵⁾東京品川病院¹⁾、東京品川病院 消化器内科²⁾、東京品川病院 呼吸器内科³⁾、東京品川病院 泌尿器科⁴⁾、東京品川病院 耳鼻咽喉科⁵⁾

<背景>タスクシフト・シェアによって、「消化器内視鏡検査・治療における生体組織採取」が法的に臨床検査技師の業務として認められることとなった。兼ねてより臨床検査技師の内視鏡技師として働いてきた我々にとっては非常に嬉しいことであり、今後内視鏡領域へのさらなる活躍と発展を期待している。今回認められた生検操作は内視鏡業務の中で最も基本的な介助であるが、「消化器内視鏡技師」という認定がある通り、内視鏡技師の業務はさらに広く、深く広がっている。

<目的>生検介助を含めた、内視鏡技師の業務について紹介する。

<業務の実際>内視鏡業務を初めて行っていく際、最初に教えるのは生検介助ではなく、内視鏡室の感染管理や内視鏡スコープの取り扱いについてである。内視鏡介助者は、内視鏡室内の環境面での清潔・不潔と、使用前後の内視鏡スコープや生検鉗子含むデバイスの清潔・不潔、そして高額医療機器である内視鏡スコープの取り扱いについて教育を受ける。その後、実際の内視鏡検査の介助に入り、介助の基本である生検介助を覚えていく。生検介助は、内視鏡介助の基本であり、内視鏡特有の長さを持ったデバイスの取り扱い、デバイスの操作や施行医とのタイミングなど、様々な基本が詰まっている。消化器内視鏡領域においては、検査の介助に続いて治療の介助を教育していくことが多い。

消化器領域だけでなく呼吸器・泌尿器・耳鼻咽喉・婦人科などでも内視鏡検査・治療は行われている。どの領域においても、内視鏡スコープによる観察と、生検による組織検査は基本である。当院では、消化器内視鏡介助に加えて、気管支内視鏡、泌尿器内視鏡・耳鼻咽喉内視鏡領域において介助者として参入し、活躍の場を広げている。消化器・呼吸器以外の内視鏡領域は、各外来や手術室で検査・治療を行っていることが多い。耳鼻咽喉科での聴力検査や泌尿器科での尿量測定などは、臨床検査技師が関わっている病院も多く、内視鏡介助まで行えることは各診療科での需要向上に繋がると考えられる。

<今後の展望>臨床検査技師として、また内視鏡技師として、今後の活躍次第で各診療科に「いなくてはならない存在」になっていくことに期待したい。

<東京品川病院 TEL：03-3764-0511（代表）>